

# 浙江省紹興市

岡山県上海事務所 所長 小林和暁

(日中経済貿易センター上海事務所)

浙江省紹興市は浙江湾南岸に位置し、総人口は494万人、紹興酒の産地として有名で、魯迅の出身地としても知られています。街の歴史は古く、紀元前2200年頃に河南省で興った夏王朝の開祖、禹の大墓陵（名称：大禹陵）がこの地に建設され、紀元前233年には秦朝が会稽郡を置きました。

このように観光都市としてのイメージが強い同市ですが、工業都市としても発展しています。2013年7月1日に高速鉄道が、同年7月19日に紹興市と浙江湾北岸（浙江省嘉興市）とを結ぶ杭州湾嘉紹跨海大橋が開通したことにより交通事情が大きく改善し、比較的低廉なコストと交通の利便性からコストパフォーマンスの高い地域として、新たな進出先、既存工場の移転先として注目を集めています。

## 交通

上海から紹興市へは高速鉄道（杭州経由直通列車）、車（杭州湾嘉紹跨海大橋経由）とも約1時間半です。日本からは東京・大阪から全日空の毎日便がある杭州蕭山空港の利用が便利で、同空港から紹興市までは車かリムジンバスで約40分です。海上輸送では上海港と寧波港の利用が便利で、いずれへも紹興市からトラックで2時間強の距離であり、日本への航路も多数設定されています。

## 投資環境

紹興市への工業投資は、昨今は同市上虞区にある中国杭州湾経済技術開発区が主な受け入れ先になっています。同開発区は杭州湾岸、杭州湾嘉紹跨海大橋の南詰め付近に広がる面積275平方キロメートルの国家級開発区で、現在は日本を含む20数カ国から200社以上が進出しています。

同開発区やその周辺に立地する企業は機械、

設備、自動車部品、電子、電気部品、新材料が多く、昨今の進出もこれらの業種に集中しています。この他、古くからの地場産業としてアパレルや食品企業も多く、これは同市の水が良いことから企業集積が進んだものです。

最近まで交通が不便であったことから各種コストは比較的安く、人件費は初級工で2500元前後（最低賃金は1470元）、レンタル工場は12元/㎡/月が目安です。こうした理由から企業の移転も進みつつあり、交通の利便性の大幅な向上から物流企業が集積しつつあるのも注目点です。単なるコスト低減目的の移転ではなく、上海市や杭州市、蘇州市など比較的市場に近い生産地として、今後のますますの発展が期待されています。

## 日系企業

現在、紹興市に進出している日系企業は約280社です。日本企業専用の受け皿として中国杭州湾経済技術開発区にある浙江日欣科技园があり、2014年の受入れ開始以来、すでに4社が進出済または進出準備中です。紹興市上虞区政府に所属する日本人顧問と浙江日欣科技园に所属する日本人担当者が各1名おり、日本語で、日本企業の立場に基づいた投資誘致を進めています。同科技园が重視するのは販売先開拓支援を含めた総合的なサービス提供で、進出間もない企業の不安をできる限り取り除いています。

中国のコストアップばかりが注目される昨今ですが、上海を中心とした中国華東地区は世界的にも有数の市場であり、市場への距離と実質コストとのバランスが良い浙江省紹興市の投資環境はこの地域でも稀有の存在となっています。



浙江省紹興市の位置関係

※薄緑の地域が紹興市、赤の地域が中国杭州湾  
經濟技術開發区

(2015年5月)